

2018.10.21 年間第29主日

## 何を願っているのか

マルコによる福音 10:35-45

(そのとき、)ゼベダイの子ヤコブとヨハネが進み出て、イエスに言った。「先生、お願いすることをかなえていただきたいのですが。」イエスが、「何をしてほしいのか」と言われると、二人は言った。「栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせてください。」イエスは言われた。「あなたがたは、自分が何を願っているか、分かっていない。このわたしが飲む杯を飲み、このわたしが受ける洗礼を受けることができるか。」彼らが、「できます」と言うと、イエスは言われた。「確かに、あなたがたはわたしが飲む杯を飲み、わたしが受ける洗礼を受けることになる。しかし、わたしの右や左にだれが座るかは、わたしの決めることではない。それは、定められた人々に許されるのだ。」ほかの十人の者はこれを聞いて、ヤコブとヨハネのことで腹を立て始めた。そこで、イエスは(十二人)を呼び寄せて言われた。「あなたがたも知っているように、異邦人の中では、支配者と見なされている人々が民を支配し、偉い人たちが権力を振るっている。しかし、あなたがたの間では、そうではない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」

### 説教

イエスの福音、イエスのことばは「さかさま」です。ふつうの意味からすると「ひっくりかえって」います。

**しかし、あなたがたの間ではそうではない。…(中略)…また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。マルコ 10:43-45**

ここでイエスがしている「身代金」というのは当時は奴隷を解放してもらうために支払う代金を意味しています。そこから人を罪の奴隷状態から解放する神のわざの意味に転じました。偉くなりたい者は仕える者になれ、上になりたいものは下になれ、しもべになれ、ともイエスはいいます。

ところで、株の投資用語に「逆張り」ということばがあります。

**取引で、人気のよいときに売り、悪いときに買うこと。⇔順張り。(デジタル大辞泉)**

ふつうに考えれば人気のあるときには買いで、人気のないときには売りですが、そのさかさまをすることを逆張りといえます。どうしてそうするかといえば、逆張りしたほうが儲かることがあるからです。

わたしは株はやりませんが、若いころ仕事がうまくいかない時にあえて自分の考えの反対のことをやるようにしました。裏目に張ったわけです。そうするとうまくいった(儲かった)ことがありました。逆張りの本来の手法とはちょっと違っていますが似たような考えかもしれません。

イエスの「さまたま」「ひっくりかえし」も「逆張り」に似ています。そしてその考え方は長い年月をかけて現代では民主主義という制度でほぼ実現しています。大臣は偉い人ですが、国民に仕える者です。次官はえらい役人ですが、その仕事の目的は国民に仕えることです。それができないときには大臣は落選(辞職)し、次官は罷免されます。

**いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。マルコ 10:44**

イエスさまが「逆張り」のお方だとすると、世の中はそれを実現しました。しかし、イエスさまの思いとは逆に発展しています。なぜか？

**イエスは言われた。「あなたがたは、自分が何を願っているのか、分かっていない」**マルコ 10:38a

わたしたちは宗教と政治を分断することで「上になりたい者を下に」を実現しました。でもそれが「願い」だったのでしょうか。

だとすると、わたしたちは何を願っているのでしょうか、そしてその願いはどのようにかなうのでしょうか。イエスのことばに聞き入ると同時にわたしたち

自身の心にも聞いてみる必要があります。わたしたちはヤコブやヨハネのように、イエスの右の座を求めているわけではありません。では、いったいなにを願っているのでしょうか。一人ひとり、どうぞ顧みてください。

-----